

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30



特別
14
600
15



全五冊曲亭主人編

九之

南猿里見八大傳第九輯

二十六之卷二十一

下卷之下甲

重刊

信

丁子屋平兵衛版



南總里見八犬傳 卷之二十六

東都 曲亭主人編次

第百四十回 大江に名を華夏よ揚ぐ

前頭表後詰大江親兵衛の馬上を香車介直道と槍を合す。奮勇突戦。下落の馬上を落す。直道の突りをかねて親兵衛が槍の先頭を裏の白粉を含むて黒以外全く會す。白黒相取る。雄鷹雌伏の勢ひ。明事早まく果たしと人々の眼もせぐ。慶功。又那紀内鬼平立景紀ハ西の主小門主を宣傳。直道と乗換で親兵衛の後方と距ること十回許。馬を走ら。隣居を准。御衣裳を小工机の聲高す。大江親兵衛止。古田官領家御ゆ。今三町と辯拂せ。飛石の鬼平。立景。又牛馬内を襲う。自得の一石安。

よ。嘸りく頭を殴り破る。然も亦鬼に錯り。親兵衛は直道の槍と
膝と足と左へ向て辟て馬上の剽撃斜よりあ陣は投石へ空より飛過て親
兵衛と廻戦。香車介直道の眉扇を構む。前歴を被れて死野所の痛疾の一雪安
時も活埋せば馬うち撃と墜てけり。ほどぞ鬼年号是紀れ。夜と驚て眼と
二を以て搔扒む。那时遅一。這時速一。親兵衛も亦震る。準備の小石を全まゆ
アセ自身を擇返す。丁と擇つ修練神速。先の差を景氣を競ひ。槍を打て。
又鎌をもハ二頭の馬と牽騎を推鏡め。是を。小門をかき立て本意を思ふ毎に。
添の武士直道の内金を卒執。鎌の取締を。故馬を果て皆東西へ走寄り
ケ。兩個の傷瘡児と勦り抱た起て。脅力あり。首と駆ひ後立。者ハ脚を引つ
瀆。無事。其子一聲苦と叫び。黒と脚空ある馬上う。斤手にて躰す。登時介
添の武士直道の内金を卒執。鎌の取締を。故馬を果て皆東西へ走寄り
ケ。两个の傷瘡児と勦り抱た起て。脅力あり。首と駆ひ後立。者ハ脚を引つ
瀆。無事。其子一聲苦と叫び。黒と脚空ある馬上う。斤手にて躰す。登時介
添の武士直道の内金を卒執。鎌の取締を。故馬を果て皆東西へ走寄り
ケ。两个の傷瘡児と勦り抱た起て。脅力あり。首と駆ひ後立。者ハ脚を引つ

試 韶
直道
と家康が禽兽としてや思ひ大は剛強。眼眩す。同士擊てるのう
らむ。及那身大は常勝。殊れども彼は勇氣を失ひし。不覺。是は就て那少年の神の化現也。疫
病と名を。天狗狛。而して稱を。是よりて又騎舟。騎馬の試合。それ親兵
衛の馬を返す。想ひて其準備を致す。豫め射探。範子を建て奉れ。事す。
其功也。計。とあてて種子島中太正告。と雞。て画す。競。す。のを。や。下。す。
まよ。是死物。人身。是五十年を其長。又人より。生を。則。是活。人。禁。一。の。約。を
奉。まよ。鳥。を。貫。く。ハ。日。ゆ。く。乱。軍。奔。馬。の中。う。く。或。ハ。鏑。砲。或。ハ。箭。矢。前。軍。を。
指。を。敵。を。貫。え。て。倒。す。か。死。扶。へ。今。昌。立。忌。を。と。之。を。做。て。親。兵。衛。並。て。我。们。
人。俱。よ。後。備。生。を。戴。た。て。や。立。頭。小。的。を。建。馬。と。擇。構。ま。と。放。射。者。者。る。
射。が。多。枝。小。管。樹。す。所。の。小。管。樹。す。と。も。は。顧。か。あ。ま。せ。對。三。を。與。の。庸。常。
弓。射。場。の。小。的。を。做。と。ぐ。ば。み。の。地。を。見。守。は。是。を。置。と。思。い。あ。ま。す。こ。い。

争ひを爲す財の爲めに、されば、國を取る身の取れど誰が、懲らむと見せし且我宣義
試験す。大江は及びぬ。其身をめ擲て改めとて、開き、斬りとて他と怨まん。和て
理義もあらず況や已と勝れる。敵をかたせし、情地より謀りて報す。即ち、事
罪免ふ。と余と處て謀る。本意とぞ遠び、悔て後も因みの事も。不
財の爲めを射す。と後悔もとて、及びて、切り辭め、心滿齊の節性も、只は浮
薄の本性あり。與て余と處て謀りく。大江と害をとむ者も無
を失ふ。と是も、口是も、口非も、口はり。もてつまんで、口はり。口はり。口はり。
猶復り思事の如くと揮り切つ。諫りと正告とを。膺承とぞ好き其言事
ら。和殿と裏をむけせんと、又へどりひ摺て、衝と立ゆる。有司と對し、口はり。
またき。口はり。口はり。口はり。口はり。口はり。口はり。口はり。口はり。口はり。
の事と願ひ。政元政詮をも。大深後。國安とし。又と正告も亦奸虜。
非人よきよ達がて而と起をうさ。是小人の輩ひへ従ふ。あらざる際し。折翼
を

衞と呼べ。駕嘆。思ひ。那種鳴ふ。小人よ。今や。齒。アホ足。山。音。唐
宋の康王。射る。余よ。人をも。薦。セ。と。不。獲。也。做。也。又。今。戰。世。の。諸。侯。の。事。を
覽。見。て。好。む。家。か。運。舞。と。う。ゆ。充。竟。き。發。生。と。因。坐。と。並。せ。る。中。央。機。閥
の。うち。も。そ。持。ハ。福。を。擇。じ。と。の。語。と。因。う。欲。福。高。運。笑。ハ。眉。玉。可。見。の。我が
手。と。是。異。慶。を。正。生。せ。上。の。日。と。同。く。と。談。ハ。獨。秋。篠。廣。安。田。尾。砾。中の。片。玉
音。哉。ある。都。で。理。義。分。明。実。是。君。子。の。風。う。往。と。先。階。此。廣。音。の。我が
篠。將。と。自。慶。當。種。子。既。中。太。正。告。女。と。共。信。歎。立。所。と。前。練。施。と。集。と。與。培。の
い。を。へ。頃。う。き。ま。さ。う。り。の。る。な。今。ス。ミ。カ。ト。見。キ。ト。ス。ム。う。き。
入。程。子。頃。省。ま。る。津。鴻。鷹。達。見。る。雲。用。う。南。へ。暮。く。度。す。あ。政。元。假。成。國。す。

うち石のよの。のまくえき。や。がる。一。ひがまあま。あまう。ひこな。す。
遅早見出。と。急。近習をきて。件の。まほ。ひま。目。今居ヨリ。天津。鷹。立。方。飛。投。
未。も。各地を。射。捉。は。第一箭。ハ。親兵衛。ま。べ。二箭。三矢。飛。得。曾。日。中。太。左。軍。右。吉。
便宜。を。償。せ。と。夜。と。の。ま。が。三。士。衆。ノ。共。信。ニ。其。方。を。遂。勝。仰。ア。前。局。極。て。遠。付。
れ。事。大。渾。う。か。ぞ。つ。せ。ま。と思。難。う。事。中。は。親。兵。衛。奉。恩。玉。來。勅。西。ち。モ。介。
添。の。武。キ。持。一。鎧。砲。是。今。ミ。金。マ。那。鷹。程。モ。ス。イ。時。天。ト。向。ソ。空。佐。ハ。大。益。セ。
鎧。て。撃。之。放。る。群。鷹。レ。上。驚。れ。之。列。モ。一。氣。と。降。る。大。も。と。鎧。砲。投。捨。リ。前。未。セ。
各。モ。い。の。つ。ホ。あ。い。ち。ひ。そ。の。子。お。ひ。大。は。レ。介。添。の。武。モ。但。ニ。五。首。の。鷹。を。金。坑。て。各。
鷹。と。射。る。箭。局。差。レ。一。集。の。寶。鷹。弦。ミ。シ。テ。復。モ。リ。廣。當。と。正。生。ト。大。江。が。ふ。段。ニ。便。
射。の。性。を。飛。不。寫。し。脚。互。活。ヒ。テ。笑。檢。使。と。共。信。龍。即。假。廣。周。ヘ。リ。が。ま。ナ。一。政。ニ。圖。タ。小。
うち。見。ま。の。種。子。嶋。正。生。ノ。鎧。砲。少。階。モ。一。鷹。ハ。弓。項。セ。轉。断。鎧。砲。失。テ。

鮮。血。角。原。れ。あ。う。又。秋。條。廣。廣。が。射。う。鷹。ハ。左。の。羽。の。下。す。右。の。北。月。ヘ。皆。本。年。
車。蓋。入。深。る。の。三。月。ノ。行。レ。セ。軍。大。江。親。兵。衛。が。射。う。頭。モ。一。隻。の。鷹。其。翼。を。隨。
ま。の。手。を。脚。リ。身。と。傷。れ。れ。非。常。鳴。モ。と。奪。レ。取。え。既。ニ。揃。レ。畢。て。且。數。シ。且。威。重。
大。さ。き。の。実。檢。使。セ。ど。ら。て。り。み。す。若。石。們。兵。と。何。と。見。る。鎧。砲。近。處。是。舶。來。の。兵。器。
飛。は。ひ。と。是。草。薙。鳥。と。觀。レ。頭。モ。一。者。自。に。ざ。く。ゼ。中。冬。ノ。修。凍。賞。モ。一。次。備。シ。く。
あ。自。の。裏。モ。故。ニ。一。身。不。具。充。て。虫。兵。の。食。鑿。備。モ。一。又。秋。條。將。曾。ノ。家。供。レ。
弓。箭。住。地。セ。ア。本。間。孫。四。郎。親。衛。モ。ト。ゆ。べ。モ。萬。中。大。は。親。兵。衛。ハ。の。水。を。獲。モ。
鷹。モ。傷。レ。と。支。鷹。ハ。礼。舊。の。鳥。モ。を。獲。モ。天。寒。ハ。時。最。長。少。の。列。モ。乱。モ。先。ヘ。奪。モ。來。
と。の。後。ま。め。モ。と。寶。と。人。便。是。呂。氏。月。全。ノ。本。文。モ。上。鷹。來。寶。山。即。是。す。諸。侯。の。寶。モ。
交。公。爵。モ。之。來。寶。禮。讓。の。義。蒙。モ。因。故。モ。と。深。モ。儒。官。モ。ア。モ。ト。モ。之。在。ハ。に。の。這。
モ。朝。モ。之。來。寶。禮。讓。モ。傳。モ。被。モ。是。別。儀。名。の。仁。字。と。稱。ク。今。御。之。而。多。制。

單

と。事の初。御前石と御鳥弓が先鋒砲を立す。右に槍を引く。騎兵たる
者。是を主とする廣富も正告ある。使を以て。其の柄を見付ける。御兵
備。勝化者誰も敵に付く廣富は正告。甲乙丙丁分明。い小的の勝負見る力の及。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
三士の聲を言葉。宜不す。親兵備が射。順乎。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。ふかく。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
三士の聲を言葉。宜不す。親兵備が射。順乎。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
三士の聲を言葉。宜不す。親兵備が射。順乎。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
三士の聲を言葉。宜不す。親兵備が射。順乎。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。
正生り的を擰ひて死物を多く無せよ。不用意す。怪物も。是かわれば本音よ相へ。若等
之を。つとまがるの言。えべね。いき。さあ。鷹の様前を擰て脚放す。其鷹鳴
きあうまた。のぞう。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。まこと。

鳥を打墜し。我を語。續て。後世勝負の定。率て。卒被殺。主の後
者。共に西の。程は親兵備。お莫。擔。又。後。逃れ。と
せ。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
せ。と。實。槍。使。を。推。と。今。不。騎。馬。の。槍。棒。送。日。影。傾。と。の。日。今。頭。を。送。
を。と。槍。且。等。せ。あ。と。み。言。ひ。と。ふ。果。の。向。と。而。個。の。槍。棒。を。手。あ。と。も。の。目。今。頭。を。送。
と。と。等。程。み。又。八。九。個。の。收。縛。の。叫。陸。陸。左。東。の。肩。槍。連。と。手。棒。を。
と。こ。れ。は。六。尺。許。高。太。打。鐵。棒。丈。外。高。下。実。槍。使。ら。親。兵。備。を。向。て。大。は。生。
こ。れ。が。と。ひ。る。王。君。と。聞。ひ。る。を。作。り。大。打。鐵。棒。重。八。二。斤。を。是。う。那。蜀。
漢。の。國。雲。長。の。青。龍。偃。月。刀。を。振。へ。る。軍。械。自。他。相。心。一。か。む。ふ。集。と。雌。雄。と。次。
め。ま。く。と。二。ヶ。君。命。の。如。く。玉。と。告。言。て。親。兵。備。を。と。開。を。殊。と。雄。と。次。
備。ま。と。木。と。女。れ。い。び。と。ど。れ。く。も。紫。子。具。取。捨。て。脇。の。獲。を。甚。と。陳。と。

持し。の解説と誤す玉乃の事より其棒を試す。推曉も其棒を
と指揮。父牧翁毎月見てやと推定る。鐵の棒。力と勢にて一步後と馬の
身邊へと寄れ。親兵衛は馬上に棒を度す。極て。後揚げ合せ直す振試。飛
拂ひ面を。交えさせ。自若する。玉乃が。筆と象人。假夜宿。遠里も推進。
玉あくと。がうよ。口奉れて。信。長。顔て。有ほ。一程。第五卷の。萬丈鼓。又。鼓
鑿と打鳴。西の。と。手。馬と我。使用。打拍上。寫。手。像。六十
行。之。鐵の。假夜宿馬上。又。腰。抜。之。筆。惡。僧。聖。刑。を。そく。方。吸。手。沙
知。や。徒然草。の。萬丈鼓。師。又。取。筆。之。騎馬と早。歌。暗。傳。と
せ。と。雪。せ。と。い。と。と。我在。俗。昔。う。室。門。二年。と。廢。ま。馬。の。と。ら。ま。れ
ま。武。藝。手。人。と。讓。る。入。重。本。事。と。不。可。能。な。居。と。之。壁。前。然。山。内。典
外。典。へ。が。ほ。ん。武。藝。手。馬。上。の。序。筆。猶。滑。勇。筆。誰。亦。我。既。ま。急。知。量。素。聊。失。筆。士。の

て。おも。ふり。ま。水漏り。不直。で。聲。れ。の。余。も。巡回。の。先。度。お。同。ト。久。暗。の。勝。見。で。く。が。
戦。と。克。を。智。と。馳。く。口。を。食。と。自。負。浪。き。使。用。然。て。と。領。な。馬。と
筋。半。さ。く。假。夜。宿。の。邊。よ。達。時。頃。を。低。騎。馬。の。札。愈。早。ひ。大。敵。を。相。す。危
と。親。兵。衛。よ。も。向。へ。と。既。力。ア。他。も。亦。八。二。引。の。器。械。を。も。易。か。と。携。え。ば。ば。五。分。の
室。怕。ち。お。だ。大。胆。虎。狼。の。本。性。非。や。石。人。銅。佛。介。首。の。五。寸。カ。ま。れ。捷。玉。碎。す。者。力。ん。や。
と。思。ひ。復。し。聲。高。す。ア。れ。篠。生。貞。期。を。三。三。十。行。立。重。す。も。あ。ん。て。和。那。を。ど。敵。あ。る
立。の。お。と。立。の。大。人。を。乗。る。仕。事。も。亦。和。那。の。役。み。ん。が。只。一。般。ア。往。生。と。せ。ん。十。萬。億。土。へ。走。れ。と。争。い
猿。と。馬。の。親。兵。衛。蓋。ま。と。美。と。意。鳥。附。量。雲。青。生。箭。の。邊。を。咱。們。が。本。の。篠。の。大。馬。と
力。思。機。亦。練。の。か。よ。丁。と。無。工。ま。家。の。道。ト。林。は。ま。ひ。の。下。て。木。指。を。高。叫。大。馬。の。頭。を。追。尋。



反が窓を御舍よ堅刑仰さぬよ棒を抱ひて一二回斤斗つ徳用る旋駆一馬足躍躍り
れ。死活不相いど平張ら。當下親兵衛。聲高すか人々不ミ。負ひ思廢。集まつ
キ。廻暮和尚を放殺え。狹情と措ん。欲つむかひと見そ。憤る。實檢使の咎を。辭せ假
廣園。も復ひ。手聲とけく。否よ。大江生。勝負は。見えう。攝つて。もぞ。撫ちり。る。
御詔要は。と扇を。拂ひ。拍ひ。聲ひ。と。慌く。囁む。花の。實檢使。も。あ。議。も。と。俱。互
處。請。二。廢。の。御兵衛。れ。と。含笑。か。ふ。廣。と。徳用。と。ら。下。走。と。車。と。
走。ま。と。走。れ。と。馬。と。牽。且。と。徳用。打。唇。と。る。鐵。の。底。枝。と。索。と。其。共
引。ゆ。與。が。然。と。少。し。後。而。詔。製。の。實。檢。果。と。が。政。主。隨。即。詔。習。と。親。上。御。と
古。き。と。字。す。空。急。え。る。故。と。親。兵。衛。の。掩。脾。と。と。股。聲。と。本。業。と。更。ま。暇。あ。

牢せと別れ。まねけ入相機。假廉と修煉。火。俊。也。見。也。も。親兵衛。の。勢。も。
只。一。駿。と。堅。初。と。微。ひ。ま。か。と。も。あ。と。他。香。西。復。公。參。と。政。文。主。と。兄。兄。弟。の。因。え。あ
都。と。う。の。賛。聲。と。う。わ。爲。と。墨。て。勝。と。の。う。と。權。且。輕。と。假。讓。ひ。と。其。極。分。り。と
ま。と。程。と。累。多。徳。用。ハ。分。と。遇。と。鐵。の。底。板。附。と。二。持。重。と。と。勢。い。裏。へ。廢。狂。へ。
進。退。遂。と。加。意。と。ぬ。行。と。勵。と。聲。が。絶。と。連。す。喧。に。叫。め。と。走。す。夕。が。引。外
あ。と。選。ん。と。も。闇。の。則。色。を。親。兵。衛。ひ。と。貞。吉。聚。ぎ。や。と。聲。と。徳。用。か。廢。狂。と
う。と。落。聲。が。交。と。華。と。火。花。と。眼。眸。と。怯。と。通。ま。と。馬。と。寄。せ。う。左。と。棒。を。今。追。と。
右。の。天。と。捲。固。と。眉。同。と。臨。て。擴。地。と。捲。捲。と。使。用。と。と。ひ。と。聲。の。前。輪。と。伏。と。
親。兵。衛。猿。臂。と。指。伸。と。帶。と。搬。と。芭。の。像。と。肩。と。向。と。搬。と。芭。の。像。と。勇。力。と。
人。皆。驥。と。争。と。堅。朝。と。不。は。堪。せ。い。と。大。は。馬。の。脚。と。拂。と。反。と。落。と。と。重。若。者。
固。の。本。車。の。持。と。棒。と。と。樹。と。走。車。驚。え。罵。若。く。奪。を。と。と。用。と。ば。力。足。

只馬と鎧の様なに介隊の兵士を遣せり。又假殿閣へまわる。政も之
を身に帯びて廻ることを以て驕らず。豪傑十倍せる。和泉の剛力、武藝精妙、実に神
出鬼怪の様に卒業して獨歩する。其の如きを上昇する。又えある。爰政
の名は是の當初のすゑと、若鷲と名づけられし太刀が、銀襷を銀襷に改め
戴く。又儘返と廻て廻す。又過ばる脚綱賞。汗額の外は、腰負ひ等時運す
事無聊做そ事あらず。亦是一時の幸ひと何らの功効なし。且却刃有の毎不ぞ
鳴るべれと推斷せ。改えず更生せしよりとぞ。謙遜舜讓の時宣すよ。へ。
今日偏和郎を嘗せざれど。何事も一士を唐ら。實を來まし志を示す。元極て我意不
まつた。先と連々強々乞ひ。親兵衛只得刀を受て腰上帶て又ひやう。今日トモ二三
子譲る。殊に瘡撲折玉悩まぬれむ。勿論脚の段玉師達也。療養長事居る。伏見寺
臣神授（モロカミシロカミ）の御車を用ひる。其のひ車一タリ。医瘡愈ん贈らざりや。と請り。小政元

喜と疑ひを。そも一段もかへどり。復ふるひ。餘るの神采とは是へども。へりと
乞ひ腰を印籠（ヨロシ）て出せが親兵衛。腰を帶びる。其の腰籠（ヨロシ）を。伏見神授の
仙丹を些一合ちを印籠（ヨロシ）。藏せ。復ふる源氏（ヨウジ）を。又。其の腰籠（ヨロシ）を。百日の
療治千賀の諸薬を。腰を即効ある用を。箇箇（カツカツ）と。詰め。復ふる。欲び。愛く。
敵敵人を。齊て件の生れ。使用す。瘡撲傷者。御す。院海傳。敷
香車介直。鬼卒五。點（ヨロシ）並。徳用。聖解。瘡撲杖。瘡の苦。相（シナ）ぬ堪。但。御す
想所。す。解す。が。疑ひ。か。件の薬を。各各用。即効果。差。至。痛楚
立地。治。去。歩移。か。宿所。は。被。是。す。件の無。す。而。日。而。て。
病愈。再起。か。地。階。下。手。を。差。ぐ。屏。居。を。絶。人。重。對。面。を。世。の
胡。虜。了。勇。主。少。公。程。親。兵。衛。又。那。小。吏。们。よ。は。そ。れ。徐。土。宿。所。よ。是。事。ト。謙
僕。们。少。の。試。擊。か。單。親。兵。衛。勇。氣。力。主。信。多。す。よ。そ。れ。騒。怕。仕

う者多く皆謹みほへり。恐がまし。数日もあらず。親兵衛が其藝英名を。各
このよきと。ふる。ひそひ。ひそひ。ひそひ。ひそひ。ひそひ。ひそひ。ひそひ。ひそひ。
中洛外は流れ。かゝ。袖。う。卒。ひ。鬼。う。怕。れ。ひ。口。順。よ。做。そ。程。す。或。ハ。古。井。て。ほ。む。お。
親兵衛の姓名を。宿。と。門。戸。子。も。と。を。貼。れ。が。本。役。鬼。の。象。入。ぐ。も。だ。い。ま。す。
居。道。是。家。と。大。江。親。兵。衛。宿。と。歸。と。の。門。戸。子。も。と。を。貼。れ。が。本。役。鬼。の。象。入。ぐ。も。だ。い。ま。す。
三。歳。の。立。里。と。へ。が。親。兵。衛。名。字。と。の。憚。く。貌。と。改。め。或。ハ。小。鬼。の。假。装。と。厭。鬼。を。
折。其。母。親。大。に。來。き。と。辱。呪。う。あ。子。の。秋。月。と。怖。よ。敲。け。が。風。寒。居。立。地。去。ま。す。
後。世。大。江。は。そ。詠。舞。り。く。犬。の。み。と。唱。う。の。犬。え。子。即。大。江。は。す。そ。詠。と。の。事。
偶。然。う。ぬ。と。有。ま。り。し。ん。現。外。人。だ。か。の。や。の。況。政。元。の。即。る。日。毎。文。加。年。急。至。
ゆ。と。代。四。郎。も。亦。仕。事。の。趣。と。人。の。風。聲。よ。う。う。酒。肴。等。大。不。好。又。一。首。
那人。今。政。元。主。不。惜。れ。還。き。日。の。あ。ま。す。う。ぶ。ん。と。る。み。一。箇。果。大。又。一。首。
直。憂。ホ。堪。れ。か。立。生。す。五。條。頭。よ。紀。二。六。金。四。擧。す。と。せ。る。那。家。設。そ。所。ひ。そ。見。れ。す。

不。顯。官。領。左。京。大。主。政。元。主。八。女。の。日。親。兵。衛。と。招。至。と。酒。肴。等。大。
之。を。も。と。あ。後。別。席。を。と。面。談。ゆ。昨。日。ハ。良。菜。と。贈。花。子。も。損。傷。鬼。竹。
一。度。の。向。と。皆。病。氣。よ。だ。す。そ。り。他。門。の。和。兵。の。敵。よ。う。夏。す。う。だ。者。も。よ。う。及。て。
仁。慈。の。厚。す。れ。仁。慈。の。厚。す。れ。石。不。聊。て。免。難。者。の。操。て。廢。す。る。今。日。の。信。勝。能。年。モ。
又。の。薦。義。は。見。ま。の。報。い。う。と。解。示。す。と。時。服。差。贈。金。銀。を。ど。幸。物。を。與。
ら。高。親。兵。衛。ハ。只。の。故。じ。と。復。て。品。蘭。推。諭。め。も。政。元。の。正。令。免。と。呼。ぶ。風。く。有。司。
有。出。で。宿。所。へ。齎。一。通。け。り。是。ち。後。の。政。元。の。官。禁。の。暇。の。毎。ニ。親。兵。衛。と。召。よ。せ。て。
サ。よ。か。う。り。け。と。朝。見。明。日。は。濃。赤。正。形。作。と。暗。諱。と。當。日。と。宵。を。無。船。
露。相。ま。れ。休。の。武。器。金。銀。寶。金。と。藏。番。と。と。與。松。も。親。兵。衛。と。教。わ。

身。を。政。元。廉。を。す。く。必。宿。所。と。正。軍。在。が。親。兵。衛。ハ。已。と。以。を。正。安。と。而。東。
西。每。三。月。錄。金。八。月。日。と。詳。記。寫。美。と。神。小。使。す。解。け。と。小。更。す。

疑解

也。彦索りひつ。皆長韓。相ましめ。眞。僕。们。ふ。キ。サ。サ。ほ。文。政。元。年。有。一。日。親。兵。衛。と。御。持。恨。白。色。そ。レ。す。昌。表。我。若。劍。の。名。刀。を。奪。日。を。即。ミ。取。セ。一。ト。モ。勝。エ。勝。く。と。之。モ。又。衣。冠。の。花。號。あ。れ。家。族。を。敬。襲。終。與。ト。身。エ。看。み。と。見。る。を。之。モ。之。モ。稱。不。ゆ。や。わ。と。同。父。親。兵。衛。登。宣。宗。と。仰。寔。す。仰。寔。す。御。寔。す。御。寔。す。御。寔。御。服。章。も。重。職。有。功。の。人。を。う。お。り。照。り。く。く。け。じ。よ。尚。一。介。の。功。を。に。東。備。小。臣。子。被。け。ま。り。ひ。と。御。成。を。思。ひ。さ。る。ひ。な。は。も。ソ。ス。ス。シ。小。良。少。師。う。姫。カ。ノ。則。是。神。授。ミ。大。父。の。老。僕。の。賜。物。で。い。御。膝。た。臍。研。を。す。され。是。日。で。思。ひ。り。を。又。達。衣。裏。り。安。住。侯。の。賜。せ。し。東。西。う。れ。破。す。ま。で。身。玉。看。て。蘇。香。と。并。して。朝。々。々。と。遊。旅。夏。愛。と。麁。あ。休。り。是。衷。を。查。一。身。ま。る。が。先。變。の。解。べ。一。日。不。敬。ス。ル。が。胡。馬。の。北。風。す。嘶。く。も。震。霆。の。玉。枝。玉。葉。つ。る。も。是。の。本。て。思。へ。べ。之。は。長。旅。遠。客。る。者。誰。々。空。御。し。信。を。か。そ。テ。新。因。古。回。く。ふ。よ。あ。と。ね。う。方。舊。國。の。陰。ひ。と。あ。ぞ。願。ひ。早。く。と。暇。と。

曉

賜。く。成。ら。還。そ。セ。の。人。う。千。萬。金。車。改。贈。せ。御。洪。恩。か。一。矢。正。言。權。賞。ゆ。機。事。成。の。べ。得。れ。政。不。少。は。想。か。黒。若。主。軍。兩。許。憶。並。嘆。え。之。通。思。惠。の。後。生。き。る。我。か。身。の。曉。て。取。セ。ま。う。思。へ。む。い。ま。上。の。脚。免。許。事。今。次。不。安。か。ナ。和。平。倘。上。屬。意。不。補。之。室。房。へ。仰。遣。召。使。と。宣。仁。安。房。殿。推。特。ム。名。植。辨。ハ。召。臣。公。カ。て。遣。談。國。て。情。地。廟。が。だ。り。近。重。東。國。す。里。見。焚。城。が。反。逆。風。歲。耳。と。告。う。者。あ。の。ロ。ト。う。て。四。月。の。比。と。よ。和。頭。か。毎。る。セ。大。士。注。ま。里。見。の。士。卒。數。百。名。焚。城。の。ち。軍。場。ユ。未。會。て。逸。延。寺。と。破。却。セ。き。碑。ト。ノ。乱。傷。の。草。の。顛。末。我。手。所。ハ。固。様。ミ。と。徳。用。父。譲。詐。の。趣。ヒ。詳。フ。基。ル。示。セ。ル。親。兵。衛。果。果。と。笑。か。あ。び。答。ヒ。シ。つ。恐。れ。う。か。の。度。か。の。底。ど。ん。か。と。之。言。ひ。之。に。父。那。日。ハ。亦。小。臣。也。身。方。の。危。大。舅。ミ。行。會。日。と。一。臂。の。力。と。盡。キ。ト。知。ゼ。ト。見。ひ。之。ト。自。ハ。箭。徐。き。之。尾。ハ。又。箇。様。ト。之。と。

謝

、大法師の宿願から大念佛せば事徳は堅前が地に乱拂堅名輕拂
内なるのりと。根生野主素頼長城端利もが假神使の車他們が開かず車事敗れ。
立地より罪され。諭断空の趣又那地蕭昔口甚應の利益成朝の賢良善
政。その緊要を解て又ひやう。の日若城の法巡と會去へ。今義兄弟セ
ハサと豊崎殿文主僕の京都二千石より過私す。少數百名と誰ひ
し且主わざを慶美義成親王信の世を。成朝生を棄り妻又成朝主賢
子の子えどりけ。何を恨む。將軍矣對まつて。近心あんや体も猶疑
を思ひ。舟地へ同謀使を遣し。多め地方の民よ。耳多給れ。も
へふと。ある政え野嘆して。然びに事跡。差分。好々我方。御あり。程など
推禁めく次の日兩三個の同謀使と猛可。若城へ事へ事の虚実等
うちふ往復三十日を限り。も。東日取秘密の便。急が。復便。並て有司。勿

知後事。有ほいか。改元。只親兵衛。留んと。破り。心地。と。まことに。あら
思惟る。他忠信の性。とも。華燈。む。寒。る。ま。熟。が。是。年。の。ゆ。り。か。五
村處。で。好。と。て。只。其。故。御。と。莫。の。と。居。る。と。さ。よ。年。で。歷。す。京。師。の。元。の。香。る
解。べ。然。も。暮。暮。里。の。陳。く。身。れ。く。事。あ。お。勞。被。三。明。賢。と。う。不。肖。と。そ
人。惜。大。き。異。な。新。國。幸。よ。舊。恩。と。も。我。股。筋。の。家。臣。と。う。ま。直。顧。べ。我。筋
筋。と。ま。え。裏。そ。ち。ア。て。ま。ほ。だ。美。少。年。脣。の。ご。悔。假。臥。房。の。支。と。做。そ。ど。
因。答。是。う。懐。か。年。園。と。も。我。股。筋。の。家。臣。と。う。ま。直。顧。べ。我。筋
筋。と。ま。え。裏。そ。ち。ア。て。ま。ほ。だ。美。少。年。脣。の。ご。悔。假。臥。房。の。支。と。做。そ。ど。
因。答。是。う。懐。か。年。園。と。も。我。股。筋。の。家。臣。と。う。ま。直。顧。べ。我。筋
筋。と。ま。え。裏。そ。ち。ア。て。ま。ほ。だ。美。少。年。脣。の。ご。悔。假。臥。房。の。支。と。做。そ。ど。
因。答。是。う。懐。か。年。園。と。も。我。股。筋。の。家。臣。と。う。ま。直。顧。べ。我。筋
筋。と。ま。え。裏。そ。ち。ア。て。ま。ほ。だ。美。少。年。脣。の。ご。悔。假。臥。房。の。支。と。做。そ。ど。

融

情ひ情て饅頭を喰ふ。其のまゝ親兵衛の酒盃を受取れ。のうすの
手を向ふとあが謹て答へ向むかへ難然とす。左も右も礼儀を失ふ。語の次第。折八。
左身の眼と腰と。垣牆圍れが狹い。兎も。穴は破れぞ。風騒が。改元。信長の
縛り。親兵衛と三と行ひよきも。かへる所をたれば。外に處て。瘡を抱く心地。
の。二癡情を果す。腹を立つ。お掛りか。素より色の底のこすね。すゑく田じ
機。行法。精進。とす。まづの内。猶親兵衛と惜し。旅さざ。化身の眼と語ふ
と。ひに御軍。家の御免許。と。或ます。佯り唱つ。久く豪留の風と計ら。嗚乎
人ふる。則是親兵衛。二時の辰。傳ひ。坐連坐。思の所。海きぬ。益。在昔
將軍院上田麻呂大宿。餘の軀長五尺八寸。脇厚一尺二寸。面白以視之。徧
見。此は、

百四回十六

四月十二日

廿六の巻 十四

背く以視之。脩。仰。目。若。鷹。の。眞。眼。十萬。金。の。良。之。
轍。増。重。と。久。財。二百。斤。車。工。と。久。財。六十四。斤。動。靜。檢。合。輕。重。意。見。
任。を。怒。そ。則。眼。と。回。若。猛。四。獸。の。急。敵。た。れ。唉。則。眉。と。舒。れ。雅。す。早。く。懷。
居。す。ゆ。と。屋。東。夷。と。遠。洋。と。單。功。國。史。と。大。熱。と。冠。亞。相。と。晉。伊。
力。當。旨。軍。雪。の。樂。と。改。忠。信。武。略。腹。勇。の。和。漢。又。秀。一。古。寔。又。因。又。全。
之。江。親。兵。衛。へ。見。所。綽。約。る。只。是。豊。能。治。の。少。年。少。笑。日。是。多。為。
之。吉。の。忍。辭。の。想。ひ。と。做。せ。女。子。人。改。え。の。女。人。あ。又。之。武。界。勇。度。の。英。
雄。を。取。れ。人。か。意。を。と。ひ。そ。又。あ。言。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。
か。ね。が。君。の。付。く。小。人。あ。誰。六。大。士。と。付。く。都。と。其。御。領。と。宣。る。氣。質。ハ。各。
大。同。小。異。氣。質。ハ。皆。皆。付。く。ハ。周。野。と。天。泰。ハ。ジ。ニ。福。と。ど。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

左あは。ゆうとを食ふと、そんへ至るゝを。是を思ひか。同士は、身を失ひ、親兵衛は、不^レ在りて百十許人^{アリ}。宿の庭面は、火の出聲^{アリ}。延る朝夜相白く。多^シの氷炭合ぬ。權貴の邊に陪堂^{アリ}。せもと身と不^レ保て。果敢^{アリ}。且^テ暮^{アリ}。

だ。ま。亞那報明を失^カ。西^{アリ}。誠悔を車とモ

第41回 まを生みぬ 神助竹田を死^カ 宮四郎と成る

詔表丹波國某田郡某^{アリ}。原是豊後の大友^{アリ}。家臣^{アリ}。不^レ文^{アリ}。同士某甲^{アリ}。妻解是と密通す。ありて車發覺れど^{アリ}。程^{アリ}。有^カ實^{アリ}。急子^{アリ}。身^{アリ}。於^{アリ}。免^{アリ}。而^{アリ}。偷^{アリ}。共^{アリ}。信^{アリ}。遠^{アリ}。幸^{アリ}。影^{アリ}。跡^{アリ}。瘞^{アリ}。の由^{アリ}。當^{アリ}。這^{アリ}。茶師院村^{アリ}。流寓^{アリ}。於^{アリ}。免^{アリ}。が長^{アリ}。人の財^{アリ}。船^{アリ}。盤^{アリ}。獵^{アリ}。餘^{アリ}。波^{アリ}。猶^{アリ}。二十金^{アリ}。隨^{アリ}。即^{アリ}。白屋^{アリ}。細^{アリ}。小^{アリ}。買^{アリ}。木^{アリ}。膝^{アリ}。容^{アリ}。の歸^{アリ}。不^レ知^{アリ}。

坐^{アリ}。食^{アリ}。箱^{アリ}。空^{アリ}。且^テ狂^{アリ}。性^{アリ}。醜^{アリ}。酒^{アリ}。嗜^{アリ}。むす^{アリ}。飲食^{アリ}。友^{アリ}。施^{アリ}。が^{アリ}。も^{アリ}。い^{アリ}。の^{アリ}。そ^{アリ}。の^{アリ}。も^{アリ}。食^{アリ}。走^{アリ}。櫛^{アリ}。櫛^{アリ}。筆^{アリ}。下^{アリ}。免^{アリ}。鏡^{アリ}。一^{アリ}。卷^{アリ}。丈^{アリ}。程^{アリ}。錢^{アリ}。畫^{アリ}。不^レ。友^{アリ}。朝^{アリ}。身^{アリ}。煙^{アリ}。共^{アリ}。心^{アリ}。破^{アリ}。思^{アリ}。之^{アリ}。藥^{アリ}。陸^{アリ}。弱^{アリ}。本^{アリ}。性^{アリ}。不^レ。可^{アリ}。走^{アリ}。書^{アリ}。入^{アリ}。金^{アリ}。人^{アリ}。與^{アリ}。实^{アリ}。新^{アリ}。舊^{アリ}。草^{アリ}。莫^{アリ}。山^{アリ}。曲^{アリ}。帶^{アリ}。大^{アリ}。小^{アリ}。只得^{アリ}。免^{アリ}。苦^{アリ}。續^{アリ}。情^{アリ}。據^{アリ}。無^{アリ}。錦^{アリ}。然^{アリ}。細^{アリ}。手^{アリ}。技^{アリ}。口^{アリ}。餉^{アリ}。足^{アリ}。不^レ。無^{アリ}。鄭^{アリ}。而^{アリ}。心^{アリ}。免^{アリ}。程^{アリ}。張^{アリ}。休^{アリ}。主^{アリ}。人^{アリ}。六十^{アリ}。可^{アリ}。老^{アリ}。家^{アリ}。算^{アリ}。九里^{アリ}。干^{アリ}。喰^{アリ}。地^{アリ}。舊^{アリ}。莊^{アリ}。客^{アリ}。復^{アリ}。近^{アリ}。曾^{アリ}。妻^{アリ}。世^{アリ}。男^{アリ}。女^{アリ}。の^{アリ}。思^{アリ}。一人^{アリ}。多^シ。只^{アリ}。些^{アリ}。許^{アリ}。の^{アリ}。田^{アリ}。園^{アリ}。開^{アリ}。人^{アリ}。不^レ。官^{アリ}。財^{アリ}。那^{アリ}。身^{アリ}。繪^{アリ}。馬^{アリ}。賣^{アリ}。活業^{アリ}。と^{アリ}。縣^{アリ}。則^{アリ}。千^{アリ}。下^{アリ}。商^{アリ}。然^{アリ}。と^{アリ}。村^{アリ}。農^{アリ}。業^{アリ}。繪^{アリ}。田^{アリ}。園^{アリ}。見^{アリ}。免^{アリ}。官^{アリ}。詩^{アリ}。か^{アリ}。か^{アリ}。本^{アリ}。東^{アリ}。盡^{アリ}。よ^{アリ}。繪^{アリ}。光^{アリ}。山^{アリ}。茶^{アリ}。僕^{アリ}。と^{アリ}。喰^{アリ}。做^{アリ}。一^{アリ}。座^{アリ}。大^{アリ}。判^{アリ}。因^{アリ}。村^{アリ}。ま^{アリ}。と^{アリ}。集^{アリ}。山^{アリ}。本^{アリ}。直^{アリ}。付^{アリ}。則^{アリ}。茶^{アリ}。僕^{アリ}。と^{アリ}。印^{アリ}。本^{アリ}。印^{アリ}。

辰巳午未申酉戌戌ト。袖手奉立の其面貌完はる如一。邀古推古
天白主の十二年夏四月天皇御御鳥引御車御。御命をもヨリ佛像を造セシム
奉り向御殿北園の大興王宮造ス。御金玉三百面で五百方多羅村
元人と屢ひ。一佛十二神也。當時馬公造。所今勢。距三里八百十九

祝。是日舊作祈る隨意自然と表れ利益有。もとより難病の病病空心也。世中
西行者もあ。老翁房古稀矣。一病癒と唱て深信祈請。利生を仰び。感應
か。生まきを。然る言歌弟。南無某師。更世の事。不。う。身の病の事。也。
上詠て。心攝同體。誠に長壽也。殊無病氣。高麗速至良威士。恭。其後
但馬播磨美作の曲辰民。商賈之路の邊を。道ゆ。入骨。立代。詔語。廣く承聞。斯
事。开がゆ。祈り。願事。成就事。田安への本命の画額。まわ。そ。を賽
願。す。自。假令が。私。の。年の。本命。ま。印紙。を。画。た。額。下。まわ。と。又。の。年の。本命。ハ。牛。と
病癒と唱て深信祈請。利生を仰び。感應

まか。と。恒例。と。其。本命。は。國。求。る。十二。生。宵。都。か。の。如。开。年。俗。と。寅。童
ト。と。唱。神。得。殊。不。靈。驗。利益。あ。と。と。本。尊。藥。師。如。來。弘。增。テ。祈。者。ヨ
ル。ハ。各。事。命。の。拘。を。虎。の。画。額。を。供。す。願。蒙。助。ム。ど。づ。そ。ち。然。か。不。在。九。里
平。か。村。居。て。假。う。画。額。を。賣。す。生。活。エ。做。を。故。を。送。灵。ム。よ。そ。ヘ。同。語。体。題。尔
程。か。箕。梨。九。里。平。件。の。年。の。本。命。缺。候。う。老。病。殆。身。を。逼。り。起。居。安。ら。く。一。み。
其。比。隣。る。と。も。初。見。於。竟。子。と。央。之。薪。替。也。又。用。之。而。後。亦。莫
モ。木。根。よ。せ。画。額。と。賣。さ。む。も。活。業。の。帮。助。と。も。題。ニ。す。ぞ。儀。の。走。帰。二。食
目。シ。腹。よ。云。る。瓊。結。の。蟹。を。握。る。似。在。バ。傷。者。九。里。平。之。勧。慰。り。之。安
全。を。陰。算。已。曲。意。く。水。先。酒。價。の。爲。モ。マ。錢。を。偷。う。朱。と。窮。む。支。帳。の。枉。事
事。し。む。と。九。里。平。之。底。を。知。る。病。嚴。久。老。人。の。宅。も。眷。か。方。も。處。し。親。族。と。す
る。身。負。ば。歸。か。原。と。思。ふ。と。云。る。也。們。す。示。す。遂。ふ。驚。と。長。良。嗣。よ。る。村。長。並。エ

這家

五食の甲乙を告五度。す。原宿下酒屋。其の盛夏より。九里平。春等
待とぞ。漸く。病衰へ。黄泉の客。よ。方から。送葬の事。七六の車。度を。毛蟹。於。老子ハ
否。寄。ふ。人並。う。要せど。思ひ。向。思ひ。恩。思ひ。及。素。是。淳厚の本性。る。が。近附の
え。た。是。益。病れ。は。家廟へ。茶湯を。進せ。夫婦。自身。を。揭。磨。け。あ。義。の。勤。務。生。成。る。
苔。を。拂。や。革。革。革。革。人。拂。れ。物。あ。が。り。便。手。時。浴。也。見。ま。帰。寒。

白。酒。の。壇。
の。脣。と。唇。
の。口。及。び。も。空。あ。は。勢。ひ。の。如。く。而。ニ。年。と。歴。め。程。工。弊。を。年。來。酒。主。わ。り。あ。
之。の。つ。す。あ。れ。ど。く。る。や。そ。き。の。ち。
之。頭。癩。玉。栗。の。像。乞。療。三。不。幸。も。機。会。と。知。る。を。知。る。
ね。が。醫。師。と。招。ひ。湯。薬。を。水。り。て。飲。り。て。洗。ひ。も。危。ど。火。ハ。モ。瘡。潰。て。流。る。膿。入。る。
膿。の。相。對。是。更。具。と。聲。は。字。眼。空。され。其。膿。竟。是。眼。と。入。て。痛。し。て。延。く。日。亦。足。
云。を。う。い。か。於。免。す。の。但。手。胸。安。き。と。神。よ。祈。り。佛。を。念。す。茶。餅。の。價。を。幾。
ハ。不。覺。頃。よ。櫛。と。盡。そ。程。ハ。約。莫。罕。半。許。す。て。頭。癩。れ。ぐ。る。愈。す。と。夜。れ。
南。幽。眼。共。と。痛。三。晚。天。ち。稍。眠。る。の。と。傷。の。病。苦。子。樹。と。と。賣。入。買。出。だ。ぐ。
重。一。櫻。木。師。へ。賣。願。あ。は。遠。近。人。の。寒。と。不。便。ん。と。業。師。復。も。は。は。の。門。
前。宮。經。紀。人。と。画。額。を。貰。ひ。る。年。少。か。葉。於。是。す。ハ。怒。ふ。絶。毛。聚。と。櫻。木。と。櫻。

ひひ連て他人の家を画額で飾りては。其の店に葉が市店なり。鉢たり。其買ふ所
つ。茶師へ詣る衆人。便宜を失せぬ。上り茶師院の役僧。是を奉ること。取
き願ひと訴さ。素す。本村の田守。隸れ。茶師院の寺料。未だ。勢ひ
輩あそぼう。葉が市を免ふ。貨ふ。娘も。但よ罵れ。俗云四草爐辨慶
志。不ぞ。本村の。急に。娘も。叶は。明。赤。よ。筆把。か。まわ。只得。九
五。世主。時。又那京。向。九。風。額を。贈へ。是を。茶事。う賣ふ。
九。中。施主。市店。は。茶師院の。門前。別人の。貰ふ。額。詣。人。債。よ
花。あ。な。店。只是葉を。代うち。地方。舊。店。の。り。其の。見る者。ある
其賣。買。之。實。初。然。且。み。画。を。手。利。を。細。支。幅。の。口。腹。と。頭。不
足。め。や。く。終。命。昌。と。恩。義。父。相。傳。の。田。園。三。茶。料。と。借。財。の。債。玉。蓮。姑。却
そ。他の。事。は。誠。一。れ。桂。集。多。ア。原。鍋。草。一。種。の。米。一。署。の。錢。が。あ。ゆ。く。ま。よ。け。食。の

病の苦。自身の。病。苦。身。の。疾。苦。日。也。立。ま。先。非。茶。院。懷。ひ。あ。五。人。杆
矢。薦。盜。人。今。本。般。の。善。心。は。あ。れ。ば。有。日。葉。を。免。子。み。免。天。頃。者。る
は。と。過。ま。是。と。里。唯。の。咱。す。俗。を。機。て。拂。て。あ。地。す。流。寓。ひ。始。う。身。程。の。く。鐵。畫。て
志。志。見。到。の。此。見。到。九。里。平。使。の。讓。を。免。家。と。鍵。す。時。世。渡。易。う。よ。思。考。の
鍵。あ。も。暴。疫。被。者。す。う。か。那。田。國。と。繪。馬。家。枝。失。ひ。て。す。あ。く。本
年。と。限。る。主。君。と。親。の。患。因。を。廢。す。他。妻。と。主。君。の。寔。の。訓。譽。な。ん。す。ひ。屋。す。候
九。里。平。使。の。讓。を。免。す。年。已。月。忌。を。思。い。出。を。家。産。の。往。牌。を。香。を。と。時
け。う。の。お。主。い。と。元。少。青。靈。か。が。お。持。い。四。件。物。と。づ。た。身。と。指。と。所。免。
シ。大。免。す。か。國。と。陣。家。と。商。目。量。を。今。す。逃。る。鉢。す。九。里。平。使。の。基。想。て
而。ふ。く。且。難。病。平。使。の。爲。茶。師。院。へ。日。免。す。茶。師。十二。神。の。御。前。す。實。ケ
茶。院。免。茶。院。に。歸。輪。唯。と。生。も。愁。を。免。物。非。償。主。入。免。も。色。と。酒。

とましの處所にて。是の事は、今後、其の事は、各田房に於て、
士男信す。不忠不孝不義。淫奔の罪。徳見を滅却せし現世中。
所は、度に、迷首。身を隨處に、眞如の月を、瞻る。徳あらざる死に。宿王冥界。唱書の
皆言葉を、東堂邊を、坐し。渾家を、坐し。慶喜と同在於免子ハ岸と現れ。休牧家。亦
親朋兄弟の三五を、思ひ。良人を、瘦ひ。兒身と俱の、是を、隠一迹を埋め。積は良人の
村の北牧の、生月。坐り。御制文の、怒と、相應れん。神佛も憎れ。怪と、寅禄の禍患。
禁を、廢す。藤を、斬つたす。金盞を、薦め。及後罪過を償へ。万據の山雞の峯上。而て、召化
ヨリ。兄弟品々。一生涯の、果が、切の罪滅ぼす。まへ。と。豈張本格。ア。又參の傳あひ
即十二神を、遙々拜。黙禱して。一婁妻時丹精と、凝らば。は。而。是も。今宵も。奉獻。
朝に向て。百万遍の念佛。果を。仰臥名口。ア。と。又次の日。お杖携り。幸く。茶師

内院へ。諸て茶師十二神と一個と。并まづ。罪歎。懺悔せまじき。又が、未便路る。義
五里平の吉屋參す。而烟荷を。暴疾。聴者。のう。れ。が。轟。落つ。迷。前向。去。春
暮苦難。或ひ。て。わざ。が。死。る。風雨の日と除く。外。勤め。悔意。す。か。於。免。免。これ
還され。日毎。家庭を。拂拭。茶湯飯。茶の。躰を。奮。も。且九里平の。命。日。や。便。之
墓。玉。詔。御。心。を。漫。ひ。草。と。芝。草。水。花。供。の。唱。尼。念。誦。請。福。是。更。文
有。一。時。ハ。又。母。前。主。の。終。日。歸。公。體。而。非。障。消。滅。二。世。安。樂。の。情。願。都。て
誠。と。そ。あ。故。は。些。の。餘。り。花。一。握。米。半。碗。の。飯。も。心。こ。見。上。施。と。教。生。セ。セ。
精。進。と。者。と。渴。渴。ま。走。帰。駄。房。と。墨。青。の。筆。を。前。店。寢。在。於。免。子。ノ。細。戸。
宿。也。垢。在。俗。の。優。勝。基。優。勝。勝。は。做。り。て。人。を。陳。す。解。く。モ。清。
曉。嘆。そ。一。談。す。を。あ。す。け。古。無。行。光。陰。芭。草。と。又。四。座。す。舊。時。候。



此中日疾を患ひて、卷を繕ひ、筆を擱す。又、夜の日も流し出る枕より眼を瞑り、三十日許り、眼液出と有隣。日向ひの觀も是才子四五日を度て、有一事無く不圖起坐。程より夫の雨眼又明也。見るもの光る道も察する。又、此の物をりうらを什麼とする。單心の上に其が牛丹極の色から疎に於けると囁き、其共のものと見ゆ。天を教じ地を喜びは、是が菜師の風心利益疑ひす。と、是を辭す。信より天を教じ地を喜びは、是が菜師の風心利益疑ひす。と、是を辭す。感涙して拭ぬまでも、汗びぬまでも渾身も、恭りと遡る。菜師の匂方に向て伏拜。又伏拜し、深信體より銘けり。然かば良兵をあの日より筆把る技を自由と仰れ。又、自人画るより、ひまわりの如筆畫、初よ似む。色彩殊よ異く。筆を執りて、其の筆を捨てて、墨瓶の下地を造りて、そなへ十二生肖を画くる。並の立正年相手も、とくとくと、自人画るより、ひまわりの如筆畫、初よ似む。色彩殊よ異く。筆を執りて、其の筆を捨てて、墨瓶の下地を造りて、そなへ十二生肖を画くる。並の立正年相手も、とくとくと、

と、あらわし、喜んである。と、おもふ。万葉集の、
和の真の再び、鐵之文を取て、惜しき筆師院へ詣る毎、
酒肴、是十二神へ、
おもむきて、金の宣、書を傳へ程より、其の國をすすむ。其の國の、
西顧と、優しく批評して、賣買日を増して、贈りて。筆師院へ詣る。
那門前の大店舗に、有里華入の、あるのを、
借り。且借財を多めに。做す二百六十日家は、官錢の錢をとぞ。开い、猶支拂
西様で、旅食等の、賃を、續々と、繰り、續々と、
人との、寧り、七十日間の、酒肴を、春酒、過て、の、年、秋的時候、
の、日、最も、美麗なる、大店舗を、引提て、頭髮を、頭髮を、頭髮を、
店舗の、多めに、金と、料をんと、腰を、大さく、程の、恨を、頭髮を、
頭髮を、

正は是丹後行。月画登の眉齒が鋭く、種子を正。眼に二星の宿る余異

身に五穀の端なるて、衣を被る處に白絹と空すと。春時翼を

童に向ひ、和子且遠方へ我を失ひ。御の脚奥をと同が答を承り。我の這

ら、色未、頭の程遠く。山院の發都人葉師十二歳の間中第三回。寅當年も宿願

虎の面額を献き、研を附り。十二枚の額の裏裏、其の裏裏、

虎を説く爲る事無。豫画で虎をと向復れて然しに價敗した虎額也。

其の裏裏を左や右で塗物へども御良青稱金のものとひそかに傳は達累

是を在り。其れども足を拂わ。係の年歲は假想。博士能は假想。虎の素より。這大白王圓より施してあるた。圖寫れ。始唐山人の画たり。吉益の工が

本をと。發人行。又所表を寫して。今之致仕の御をと。あもを

然れど見ゆやと出でてほどと。豪傑の相譚を美術の則て乃ち虎の眸をも
身折檣棒と檻の内へ突入れて打驚たる虎は血地振然と身を打上背をきく。
眼を瞑り爪を張尾を捷るゝ嗟の聲。天震ひ地動ひ山崩石碎け草木も
廬舍も甚而反覆す猶可とす。雄威凜々か爲人豪傑也。金剛の自
身をうる群衆を麾に筆を揮て眞虎の光景を寫すと。写真
従はば其歎本と見る。特は襯毫うつむかず。絹を寫す。と。寫
真を宗とす。餘の画稿は咸焼盡す。是を朝士。上處り。公卿所取
贋。身の故に民を失那。極の難處。遂て虎て。眼を百有余日。目撃せし。
凡ての全国。客。画手を。外國の猛獸と。今。初。現。之。輒。肇。肇。櫛。
空。身。の。故。に。民。を。失。那。極。の。難。處。遂。て。虎。て。眼。を。百。有。余。日。目。撃。せ。し。
於。之。則。他。精神。と。便。て。絹。中。に。寫。し。虎。亦。如。意。眼。筆。者。目。子。を。使。也。

卷一百四十五

集宣さん説言。似て畏れ。まことに。虎。身の主。御。馬。毛。上。及
夜。狹。中。を。渡。ゆ。方。宜。戸。官。胡枝。花。を。食。と。人。傍。み。そ。く。喧。嘩。争。い。
追。罵。う。か。を。多。と。人。食。そ。馬。を。傷。り。半。體。ゆ。先。や。虎。が。外。國。を。百。獸。の。王。と
ぞ。ふ。る。猛。威。天。豺。狼。と。百。倍。不。足。老。鷹。は。け。這。画。傍。承。脱。身。ア。リ。め。ん。人。と
そ。の。う。ま。い。が。害。不。測。の。禍。う。と。思。ひ。怕。れ。眼。と。黙。か。思。聲。を。日。の。持。め。る。言。差。ひ
ふ。か。の。こ。ひ。一。公。と。那。虎。冬。个。駕。へ。も。必。騎。ハ。ル。と。享。せ。る。合。慣。る。所。さ。り。と。帝。然。ら。と。ぞ。る。
心。許。る。思。ひ。て。是。ち。後。歲。日。あ。く。果。せ。る。那。虎。ハ。病。工。毛。剪。革。禁。と。捕。得。ま
れ。だ。り。ノ。折。君。を。自。主。り。卿。相。宣。客。騎。禁。と。う。驚。け。且。感。と。原。來。金。剛。の。筆
筆。か。の。那。虎。の。祿。神。を。集。れ。え。と。が。乗。れ。ま。し。夏。の。馬。と。云。虎。と。云。神。筆。二。度。の。驗
事。獨。廣。山。を。獲。信。筆。か。馬。と。一。龍。の。こ。く。ん。や。も。す。物。の。事。思。ひ。と。因。古。廟。の。件。画
幅。知。曉。す。と。傳。す。謂。ま。す。と。考。ま。す。と。御。御。所。在。す。と。御。御。所。在。す。と。御。御。所。在。す。と。

泰二年春至太上天皇 宇多御麿神御御射祈至瞳毛虎の靈宿と御布施て
御室の仁和寺は賜御一里外より奉手の什物す。近世元弘中興。至嘉吉慶
に至るまで、藩國の諸侯蜂のまき。遂に之に亂れ。五畿七道の内や百萬戸官
騎も何人か。隼略田のまほ渡りての手子達す。近屢御唱詩より則是
御馬某甲が寄進すよとを聽いたる。今之法師们ハ或多修骨修眠氣ハシテ遠
故画と謂ふた。虎の眼を鳥殊々を齋持請す。所も思等徒宝藏ミ圖也。蟬窠ミ
儀。徒を乞ひ者ある故に我權且出其買て画額の奉る。皇孫も御因宣機事也
沙虎と画く筆は是故也。一日を黒鷹力と跋ぐ。耽説の画額を寫す居る。此
甚體必價を贈て名を復せ。駒を至ん。猶りやど某許す。諭。身ノハ画軸也
卷今見し。箱は滅び年々、過半そ神童の能辨才幹耳。新昌來歷改實今更。
休

め。ものか。哭を誓ひ。まよ且感。且愧ひ。謹て答す。承知良事。特極
お。可。幸。又。得。て。あ。歎。候。否。画。を。師。セ。ト。ぞ。資。金。御。候。お。思
ふ。と。絶。遠。画。と。曾。未。心。詮。ら。投。氣。左。も。右。も。付。ん。を。直。シ。付。木。轉。
あ。て。う。を。と。書。日。寫。も。隨。除。せ。が。行。童。ハ。定。合。す。余。ん。が。明。日。よ。て。生。活。
と。あ。ら。ま。と。あ。画。と。誓。し。前。か。我。又。折。と。這。里。よ。ま。筆。法。筆。意。と。教
授。ん。但。戒。與。一。條。り。非。如。樹。家。咸。寄。の。通。れ。威。り。人。千。余。の。利。を。あ。求.
目。を。争。む。お。虎。の。眼。を。脚。の。黙。衣。を。胸。の。體。に。ね。眞。を。叶。實。す。身。を
起。て。顎。然。す。と。お。う。程。よ。望。て。腰。に。下。り。く。立。て。目。送。り。け。つ。
日。於。恩。子。の。村。正。老。達。央。心。經。刺。の。與。上。朝。あ。た。そ。那。里。在。
お。後。も。亦。行。童。の。履。く。と。考。る。茶。免。子。ハ。以。宿。所。存。を。そ。共。も。是。を。告。け。

あらへりありまじて和すけり。却説て筆をあらはる。千の名画と本うる上虎の形狀と督ひ
画く始むる。燒く。書の運命ある。一切思ひきゆる。那村童威す。一月一度盛り又隔
日は急逝と死。是れ其の教説。内神の妙要と授ふ。最叶寧まれ。対實も體も筆
進み。後へ。一箇月許の程。其大慈でゆうべ。行童又筆を譲て。今ま。莫生
を落物の画くよ旨と要。監禁とも人を写す。かく貴賤を及。老幼を善惡を且。吾怒
憂愁憂哀苦の七情。う。走理。と。推考。い。倫常。蠻蠻。無事。皆相保。是る。又正画

の。年。前。左面。右面。又仰。又俯。傳。者。も。皆。の。胸。と。程。と。所。と。首。せ。と。お。を。毛。
毛。又。二十日。有。餘。あり。於。て。學。て。有。一日。行。童。ま。ま。に。共。ま。し。が。画。い。と。そ。な。段。
今。ハ。一。歳。詫。言。画。類。の。虎。と。画。べ。其。画。類。ハ。繼。三。尺。横。六。尺。を。是。す。明。し。毛。
毛。又。ある。を。授。企。と。鼠。牛虎兔の十二生肖。其。目。入。を。云。云。と。譲。ふ。

十五日の用。作。か。一。虎。便。ス。ハ。毛。筆。へ。を。の。画。類。せ。み。見。れ。て。人。人。賣。歌。送。筆。ま。

御。子。が。身。を。出。し。て。來。る。ま。す。の。間。筆。思。め。隨。う。び。歎。と。百。其。利。と。恐。で。慎。く
あ。幸。也。画。べ。う。ぞ。在。昔。唐。山。寺。李。伯。時。性。と。く。父。歲。う。解。と。國。を。立。て。之。假。先。
子。の。機。物。と。極。く。求。う。者。最。ヨ。う。今。こ。成。人。情。地。と。練。子。汝。公。需。ニ。仰。く。年。來。馬。と。画。く。
高。在。也。の。が。是。抑。是。也。佛。流。云。輪。圓。の。理。と。偏。果。と。良。空。が。我。安。一。元。と。後。必。向。生。道。と。墮。ん。
外。身。か。ね。の。が。是。多。の。度。と。見。て。之。假。先。と。是。之。假。先。と。是。之。假。先。と。是。之。假。先。と。是。之。假。先。
願。ハ。今。う。改。テ。佛。像。等。と。画。た。多。夫。老。壯。の。衣。裳。と。服。て。走。行。の。言。と。行。ト。者。ハ。則。
是。ま。ん。與。之。又。桀。紂。の。本。表。と。嚴。多。桀。紂。の。主。と。行。の。者。則。是。桀。紂。之。主。生。平。の。馬。
画。う。者。千。百。幅。と。至。ま。て。筆。精。佛。像。と。合。と。在。清。果。と。合。と。統。じ。年。又。と。思。ひ。な。が。と。
理。切。と。諭。キ。と。本。才。伯。時。有。理。と。察。は。是。ち。の。後。馬。と。画。と。佛。像。と。合。と。画。う。が。交。各。
和。漢。と。遠。ま。る。汝。虎。の。本。才。伯。時。の。馬。と。合。と。在。が。年。來。十二。生。育。の。畜。生。と。義。
ま。よ。う。と。今。う。又。虎。と。い。ま。よ。う。と。三。う。と。筆。持。と。は。ま。よ。う。と。八。世。四。生。道。の。悔。を。ま。る。

ましの得へども有邊りが高と重の如き。あま末の借財、信する果よりて、正に出来て轉す
事佛画師よりは、故物より我心まで、佛像の法本と取扱うて、支拂の如狀猶矣。
まも今の心の如きを福め、生涯修むる人とうが舊恩都て消滅を仰ぐ教と爲成す
事も多し。後は復ふとあが福暉息中より起る。妻妻他御より周流せん我一志の老婆心に
耳を收めて、先我画額を念ねば、我又折り重ねて、沙の画幅で、重ねて、
と解説書共て、顧顧た風服して、仰慕ひひぬ就中修一善の、一義ハ妻共作す天地より
皆まく身を起して、行皇の異日と對りて、修まらるゝ程。秋の日暮れ短く下晴するよけり。
候。寝む那行皇の選るべ一室を時目送る程より思ひ、後二人ある。是文支と呼ぶ。聲
をさげられが、嘆きの聲を聽て。北は是別人なり。則ち彼妻が、夫を子の眞理に、同母娘
とぞ。身をも。此の是別人の胸前掲げて、推居ても堪ぬ。嘆きの聲を取
そ。次に是の刺を除くと、萬つま人の胸前掲げて、推居ても堪ぬ。嘆きの聲を取

まう。憂うとひまうとひ。圓が暴く。噫。潭情人何事ぞ。昌裏が先非を識。悔の爲。生涯不極で果さんを取居
異をされし方。皆伴の常精進。以家を喰く。能頤度。歌舞。年後。後人との作多
太て餘り。悟て。我々。純。力を身に譲れ。と。日生て。夕還。來。篠。剣。不暇食。
往復す。れ。併。持。る。什麼。誰。が。歎。を。死。身。を。東。日。の。没。錢。の。ヨ。モ。ロ。故。借。を。償。果。え。と
ゆ。ま。の。自。大。哀。情。を。知。を。良。き。空。年。今。の。浮。世。の。都。も。鄙。も。貴。民。既。既。推。並。て。祖。重。調。處。
其。身。を。聞。身。を。殺。る。人の。喧。外。身。を。免。身。を。亦。戲。氣。と。の。類。や。と。け。と。今
内。患。合。ひ。る。頃。者。取。る。長。威。許。舞。一。モ。一。選。病。皆。が。這。頭。う。生。下。ま
ゆ。約。わ。一。日。二。日。の。と。き。ね。ど。知。れ。無。話。す。地。方。と。僻。う。久。身。の。皮。と。足。各。止
え。狀。豐。て。か。脚。寺。の。行。堂。か。ん。と。思。り。り。と。陳。因。か。地。が。我。身。の。寢。家。う。に。竹。庵。丹
祖。立。里。ハ。那。里。の。老。那。の。時。便。と。誰。媒。介。す。免。身。の。達。初。ひ。ま。つ。出。だ。ん。甚。唐
あ。り。ま。い。狀。り。も。こ。青。高。聲。玉。佩。半。腰。ハ。被。か。て。時。と。侯。と。猶。根。胸。前。と。掲。り。仰。及。ら

考教ふもさまれが葉を飛因一果そ且ち見ゆる自由放放りと聲の吹御く
さらはよし地走みて覺へてさあす施放らく端と止め繁櫻樹て然万葉の未歷画
額の事耶身は奇才と教と渠て已画圖て力上達する百尾まく箇様きと解示せど
於免子れを分説を聞く。尤復奇聲震立て実ニ極くわん六始ありて使ひ。
と云ふ事よ知り。讀るる今事例よまく隠されし自具が益手に免身の頑童と
愛るサキ。和情八入を傳モ欲が垣居疎れ身不振。うづ櫛宿に處
く汝世を餘まむ存命く何ぞ死したをし櫻花を新思ひ却れかと急ぐて駆て財遊る
刀子見りと捨合はて既てあらまじと寶を吐差と捷き制もと合ひ放を角へよ。
筆澤の余カエ富うさむかねば迷ふ叶い狂の也画額と共に贈權く阿膠の土鍋唐具
磯子ゆき見極らん折る外圓は鴻立人の事の元氣を観察した。空そととく咲波。
脣共信よ身を顯て外れむ。驚を噪び誰擇うす。雲包と二殊可の拂曉の

錚と。不まく壁際よ圍み。支帰劇した事ひ同々分々推隔於裏子。其
刀子と本草より後へ抜毒矢と主人支帰。訴えあふ。見れば則別人乎。其先。其
孫六之吉下様六做得貌。左を見ゆる右てて。至よ。主邊外。用事も毎事なむ
聞華の故。ゆゑに甚廢公やと同ひ。表意子へ端をふそ。那行幸の。其が趣
取引。諸事思ひ。是も引提の木を湯と候すを。疾苦の歎惜。運。漏る。其の難未休を
告れば冀の行幸の。有ける。諸聞す解示つ。猶惜乎。那少年ハ。是凡丈よ。あらド。
也。や。某院。本師。二神の事。之は。靈里子。信。も。御。徳。祥瑞の影。也。是
考見よ。利益多。と。云。風聲。よ。と。思。惟。有。忍。と。併。の。袖。立。里。の。御。威。也
終。同。よ。確。應。進。大。風。變。と。寫。も。の。尼。宮。六。則。利。義。明。證。へ。を。全。一。向。告。る。と。等。れ。ぬ。
又。而。考。見。こ。を。き。を。と。神。宮。ト。皆。く。相。れ。も。ハ。剣。解。真。下。そ。と。模。ミ。奥。人。兩。機。六。雙。



博意の美少年も含翫うそをぬむどり。非物名作故物も素木を刻て造の取もす。實童
ト。子が福童。父が福父。母が福母。かの理を思ひぬひや。と辭せ。疾と醒ふやく醉ふぞ。惆
怨と呆頭と搔く在り。陳言家も多うと。於兎子に見つ。焦煙と縱頑童。ハ。痴まれ
也。鶯。鶯え。冤鬼。え。主ひご奉られ。院まよ。女家と。耽ふ。二重の怒。ハ。か世と。月の。と。書
さ。日ゆ。而。愁。と。愁。を。ゆ。歸。り。あ。心。里。は。る。元。ゆ。み。不。と。愁。舊。と。復。刀。不。と
合。ま。ま。か。と。樵。六。急。と。板。禁。を。廢。報。教。轉。身。の。下。王。張。畢。竟。年。朱。深。信。過。不。及
く。身。自。柏。せ。と。坐。指。進。れ。が。も。疑。ひ。だ。と。口。す。り。な。れ。喧。酒。う。か。嘔。也。始。又。今
宵。も。枕。と。雛。て。宿。ふ。五。う。腹。冷。う。迷。は。廣。一。か。ざ。ん。や。自。安。戒。を。養。守。の。俗。願。學。
く。身。あ。支。歸。夜。ひ。日。カ。百。祖。苦。の。目。と。ア。郎。の。活。を。教。を。箇。お。櫻。ま。ま。家。學。
い。何。え。與。主。ひ。不。ふ。や。ま。を。明。の。牌。睡。て。喧。き。立。晨。見。の。氣。と。う。今。中。道。の
事。あ。の。か。と。こ。向。よ。か。と。う。山。主。其。意。利。害。を。な。と。日。陽。の。和。睦。を。ぐ。

形。額。大。画。額。ハ。ニ。尺。よ。六。尺。と。圓。と。圓。大。畫。額。一。集。全。画。花。さ。生。づ。と。時。校。ニ。先。村。を。擅。及。
教。を。持。て。日。教。と。度。と。達。が。件。の。下。地。を。憑。ひ。だ。と。又。が。機。冷。笑。ひ。と。开。ハ。身。持。る。
事。多。を。唱。ち。一。セ。信。さ。か。都。て。若。山。諸。寺。院。の。縁。起。は。怪。趣。不。思。議。の。革。七。樂。と。新。日。
と。あ。の。窮。そ。一。比。ト。人。よ。示。そ。各。祖。師。の。道。德。と。せ。と。同。と。ま。る。方。便。の。千。百。年。の。昔。り。と。里。者。多。く。有。る。
未。の。ち。く。と。へ。あ。の。こ。が。派。筋。近。く。壁。と。取。ら。と。去。歲。の。夏。隣。村。る。彌。勵。の。息。子。辛。嘉。四。郎。が。萬。草。の。虫。と。捉。て。
在。う。と。二。八。奇。き。一。個。の。美。す。す。の。單。其。頭。へ。連。ひ。手。く。脚。と。戻。れ。ま。と。あ。と。ひ。れ。春。の。の。
堪。を。あ。た。理。え。固。中。へ。使。入。と。構。合。と。遠。じ。と。嚴。と。審。會。の。時。と。舊。と。辛。嘉。四。郎。ハ。万。地。と。
在。ま。め。春。を。の。そ。一。處。草。苦。と。呼。程。と。在。る。美。人。ハ。消。と。と。那。身。ハ。老。無。と。唯。折。代。血。と。塗。と。春。の。の。
知。と。暮。け。と。復。と。所。親。の。見。出。と。そ。療。食。と。瘦。と。瘦。と。う。か。免。ふ。と。と。ね。れ。ど。と。一。身。不。見。の。
人。よ。篤。と。男。女。互。勉。勵。身。養。あ。の。出。家。太。面。洲。皮。玉。產。半。御。年。半。歲。變。開。と。貴。祇。の。所。屬。の。天。然。
う。と。山。鬼。と。樹。と。序。款。近。と。ま。の。胡。慮。や。と。生。涯。恥。と。知。り。と。あ。は。傳。と。タ。わ。空。氣。ハ。垂。主。が。

久參が宿所と在後日毎又頃童故て引食。今日すま増て。皆一かんを
争何見と詩。其頭より多の脱落へても其故物外ひ足病。耳と
借也。彼トシ詞。其頭より多の脱落へても其故物外ひ足病。耳と
義なきと。輝に薦ふ。向ひて現越ち度の教説。我もホ那行童。神妙佛妙變化
ト玄ひ矣。其事の脅程で。玄神童。欲あれか。勿ね。す。重酒。宿於西室。夫帰
過て。於此子。告も。又那行童の名。未履り居。之を御山病。一も貰一回も。
送よ。戒。年。履。身。の。内。す。那男色。或。や。素。も。り。あ。は。る。と。れ。す。遠處
之を隨。信客。或。深。接。餘。度。と。是。の。戒。智。慧。足。と。詠。之。失。意。反。
於。衆。子。の。疑。售。口。告。及。ひ。世。宣。之。度。之。解。之。解。之。解。之。解。
未。只。念。佛。三。昧。の。癡。の。故。と。魔。の。刺。と。障。單。と。餓。丈。と。少。の。意。見。と。極。す。則。
今日うち精進闇。て。未。見。子。と。休。そ。ん。從。五。戒。持。と。も。持。て。漏。半。日。解。
○セクジンオナ

般。の。事。と。う。る。世。の。常。言。と。その。我。早。を。誰。改。託。宣。且。う。め。と。腹。も。答。そ。裏。引。を。機。六。所。で。
争。び。そ。り。ひ。ら。ひ。甲。斐。未。を。貸。ま。へ。く。善。い。け。な。だ。と。俗。も。人。が。即。坐。と。和睦。先。じ。ど。り。知。す。
衝。と。身。と。起。て。壁。際。を。障。と。小。首。と。引。提。あ。つ。故。の。ゆ。さ。接。掛。合。笑。ま。る。喧。御。丈。界。
ま。る。の。く。み。ミ。先。這。障。と。見。ゆ。ひ。私。と。腰。の。東。西。方。か。た。却。這。障。鋪。大。曰。あ。せ。千。草。新。田。か。江。五。
座。公。新。婦。迎。て。ま。し。と。様。日。餅。と。饗。未。き。と。お。壽。祝。百。ん。と。諸。白。二。丹。臨。魚。三。尾。
引。提。す。と。這。里。を。過。折。主。達。支。帰。の。相。擇。を。見。過。一。か。と。合。ひ。す。裁。對。彼。の。鳥。游。が。と。車。
未。而。前。の。下。地。を。落。放。す。唐。意。の。花。王。す。已。と。衣。と。骨。と。折。と。今。是。和。睦。の。一段。と。因。ア。を。
明。日。す。延。え。や。江。五。を。被。或。ハ。異。日。う。と。今。這。障。と。用。ひ。と。於。対。樣。燃。ひ。ひ。対。樣。燃。ひ。ひ。
未。の。事。と。う。る。高。木。芭。下。温。木。宜。記。與。日。坐。の。内。す。嗜。る。酒。の。香。と。魚。肉。の。臭。と。羊。居。
未。の。事。と。う。る。久。人。の。体。物。の。身。と。不。堪。難。る。異。む。但。ま。と。金。銭。と。出。を。相。得。折。燒。茶。居。
煙。吹。起。と。香。胸。大。ハ。減。菸。莫。不。燒。す。と。小。碟。大。碟。熱。具。ひ。濯。く。兩。手。不。算。當。中。圓。企。橋。

六を抱持差配飲同古紙の御ん日が暮きて。二更の鐘の鳴らぬ間も傾けひ一二件鐘呪と
和るが未饗ねど主の名の聲うる皆即がまわんざれが蕉六を卒退をと舞年一秋に。
錦くすみ身を起そ框を脚下殆どと於免ふが来れし楠若燭の皮風る塵く光明自運
黙そ門鋪す臥舎十儲も今宵うち一両枕よ疏横陳すより三布席四席許の不坐席す
相詣ひ曉を宿宿鳥竹岸急地寒波の陰た罪過又ゆき知る置り星は漸ゆ薄すや鑑の
腰表をだ済む扶桑取手の鳴呼惜むべし莫免於免子太體晦の勤むと父も原あ罪
悪重ければ一善里と全く早く衆磨す打磚も石丈至る至徳也神佛感
應の事と爲て疑不利血反て冥罰す做すと云ふて畢竟於免子曰く此物の卯
猪す車駕す是と如き精ら帮助あ。業火もさう又燐かと遂す聲がほくらに銅を舞す
内説をもざる因果と看官思へ。詩未盡るか。精數既る涯處が卷首を両回不詳と讀む。

南懷里見八大傳第八解卷之二十六 終

天保九成年

閏四月二十五日寫了

著作堂毛豪木

筆 福硯。青

大吉利 市